

彦根市観光に関する 経済効果測定調査 報告書



概要版

- 平成 28 年 彦根市観光の消費動向調査結果および
観光消費による経済的波及効果の推計



平成 2 9 年 3 月

観光消費による経済波及効果の推計

・直接効果

観光客数 224万人、観光消費額 166億円、ひこにゃんグッズ販売額は7億円

・波及効果

経済波及効果総額 313億円、雇用効果 1,302人

主要調査結果

	直接効果			波及効果	
	観光客数 (実人数推計) (万人)	観光消費額 (億円)	うち ひこにゃん グッズ販売額 (億円)	総額 (億円)	雇用効果 (人)
平成19年	243	174	17	338	2,872
平成20年	185	170	10	331	1,955
平成21年	210	108	8	211	1,200
平成22年	211	120	8	228	1,129
平成23年	228	143	8	271	1,324
平成24年	204	137	9	258	1,309
平成25年	206	141	8	266	1,304
平成28年(今回調査)	224	166	7	313	1,302
前回差	18	25	▲ 0.8	46	▲ 2
前回比	9%	18%	-10%	17%	-0.2%

- ・宿泊客 22,117円、日帰り客 4,273円、城山公園(彦根城)入場者数 79万人
- ・普通車駐車台数 18.5万台、大型車駐車台数 5.6千台

主要参考指標

	1人あたり観光消費額		城山公園 (彦根城) 入場者数 (万人)	市内観光 入込客数 (万人)	普通車 駐車台数 (万台)	大型車 駐車台数 (台)
	日帰り客 (円)	宿泊客 (円)				
平成19年	5,184	23,308	76	406		
平成20年	6,660	29,554	65	333	16.1	5,510
平成21年	3,741	20,576	72	323	18.7	4,892
平成22年	4,061	19,517	73	344	17.3	5,131
平成23年	4,141	20,408	83	364	18.0	6,244
平成24年	4,393	20,260	72	332	16.1	5,012
平成25年	4,332	21,499	74	319	17.3	5,255
平成28年(今回調査)	4,273	22,117	79	324	18.5	5,638
前回差	▲ 59	618	4	5	1.1	383
前回比	-1%	3%	6%	1%	6.5%	7%

彦根の代表的観光スポットである城山公園(彦根城を含む)の入場者数は、前回調査(平成25年)比で6%増加した。また、普通車・大型車ともに駐車台数は7%増加した。なお、彦根城博物館の来場者数は7%増だったのに対して、同玄宮園の入園者数は22%も増加した(ともに前回調査比)。観光客の実人数は224万人(対前回9%増)に増加したものの、1人あたり訪問地点数が減ったことで、観光入込客数は1%の増加にとどまった。1人あたり観光消費額では、日帰り客で1%減となったものの、宿泊客では3%増加した。結果として、消費総額は166億円(対前回18%増)であり、経済波及効果は313億円(同17%増)となった。なお、ひこにゃんグッズ販売額は1割減の7億円だった。

観光客1人当たり観光消費額の内訳

【観光客1人あたり観光消費額の内訳】

観光客アンケートデータから、彦根観光における宿泊客・日帰り客別の1人あたり観光消費金額はそれぞれ22,117円、4,273円となった。

前回調査(平成25年)に比べ宿泊客で2.9%の増額、日帰り客で1.4%の減額となった。各費目の構成比率に大きな変化はなかった。ひこにゃんグッズ購入額のお土産購入費に占める比率は、およそ2割であった。

1人あたり観光消費金額内

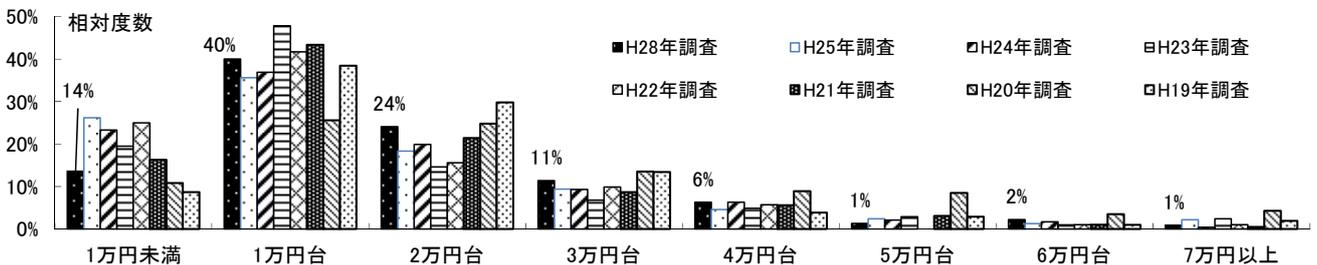
	H28年調査(本調査)			
	宿泊客		日帰り客	
	割合	平均金額	割合	平均金額
交通費	8%	¥1,790	14%	¥583
宿泊費	62%	¥13,724	0%	¥0
飲食費	16%	¥3,556	37%	¥1,570
お土産購入費	11%	¥2,351	37%	¥1,570
内ひこにゃんグッズ	20%	¥470	18%	¥288
その他	3%	¥696	13%	¥550
合計		¥22,117		¥4,273

※「内ひこにゃんグッズ」の割合のみ、お土産購入費に占める割合

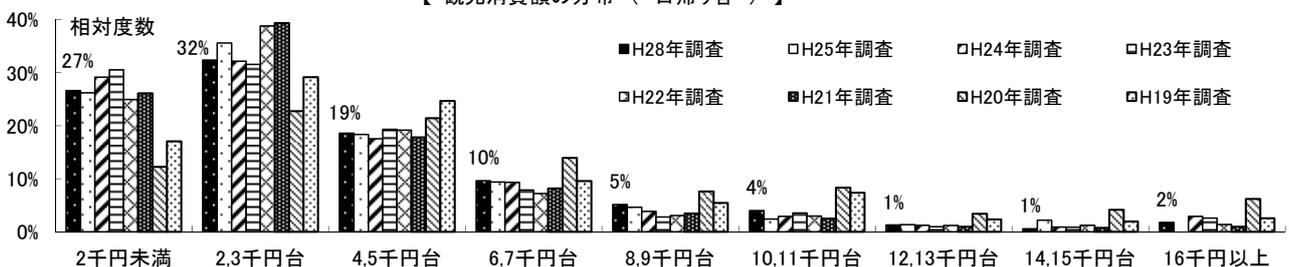
支出金額推移

	調査年						
	H25年	H24年	H23年	H22年	H21年	H20年	H19年
宿泊客							
交通費	¥3,273	¥3,079	¥2,998	¥3,257	¥3,786	¥5,636	¥2,917
宿泊費	¥9,953	¥10,011	¥9,392	¥9,267	¥8,141	¥12,059	¥9,961
飲食費	¥4,054	¥3,515	¥3,970	¥3,238	¥3,682	¥5,109	¥4,364
お土産購入費	¥3,173	¥3,216	¥3,090	¥2,846	¥3,756	¥5,102	¥4,592
内ひこにゃんグッズ	¥726	¥724	¥699	¥790	¥654	¥1,111	¥2,160
その他	¥1,045	¥440	¥959	¥909	¥1,212	¥1,648	¥1,475
合計	¥21,499	¥20,260	¥20,408	¥19,517	¥20,576	¥29,554	¥23,308
日帰り客							
交通費	¥892	¥949	¥860	¥1,056	¥1,004	¥1,947	¥1,168
宿泊費	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
飲食費	¥1,614	¥1,622	¥1,217	¥1,272	¥1,069	¥1,807	¥1,277
お土産購入費	¥1,227	¥1,572	¥1,503	¥1,226	¥1,083	¥1,953	¥1,437
内ひこにゃんグッズ	¥328	¥392	¥310	¥357	¥346	¥442	¥504
その他	¥598	¥251	¥561	¥508	¥586	¥953	¥1,302
合計	¥4,332	¥4,393	¥4,141	¥4,061	¥3,741	¥6,660	¥5,184

【観光消費額の分布(宿泊客)】

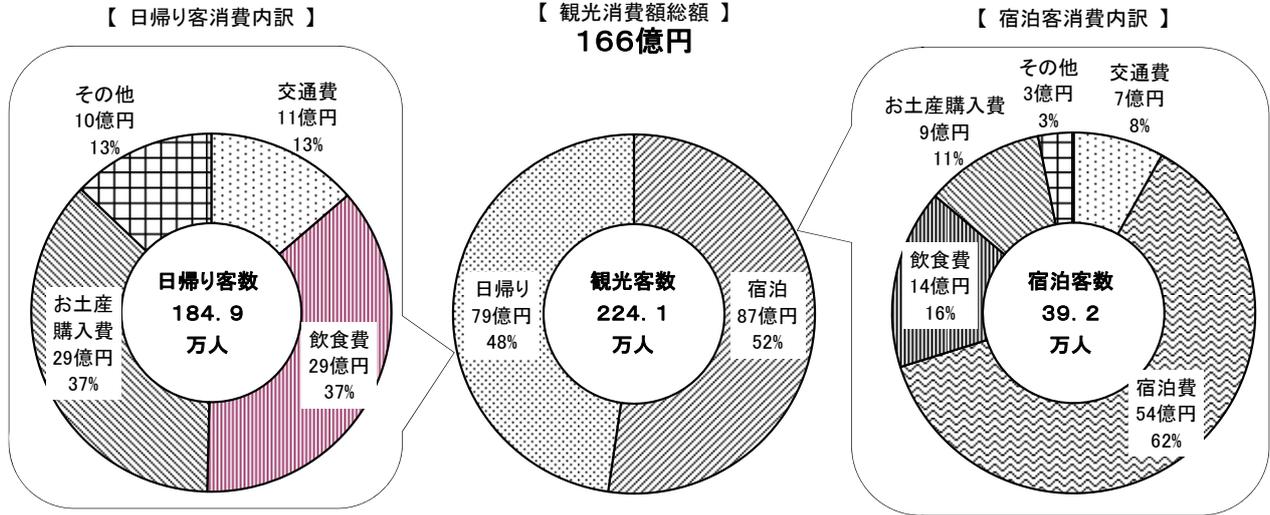


【観光消費額の分布(日帰り客)】



【 観光客数と観光消費額 】

彦根市に来訪した観光客数(実人数)は、224万人であった。そのうち、宿泊客は39万人、日帰り客は185万人と推計される。宿泊・日帰り客を合算すると、交通費18億円、宿泊費54億円、飲食費43億円、お土産購入費38億円、その他13億円を消費している。これより、観光客の消費総額は166億円と推計される。なお、お土産購入費に占めるひこにゃんグッズ販売額は7億円と推計される。観光消費額、宿泊・日帰り客消費内訳は以下の図のとおりである。

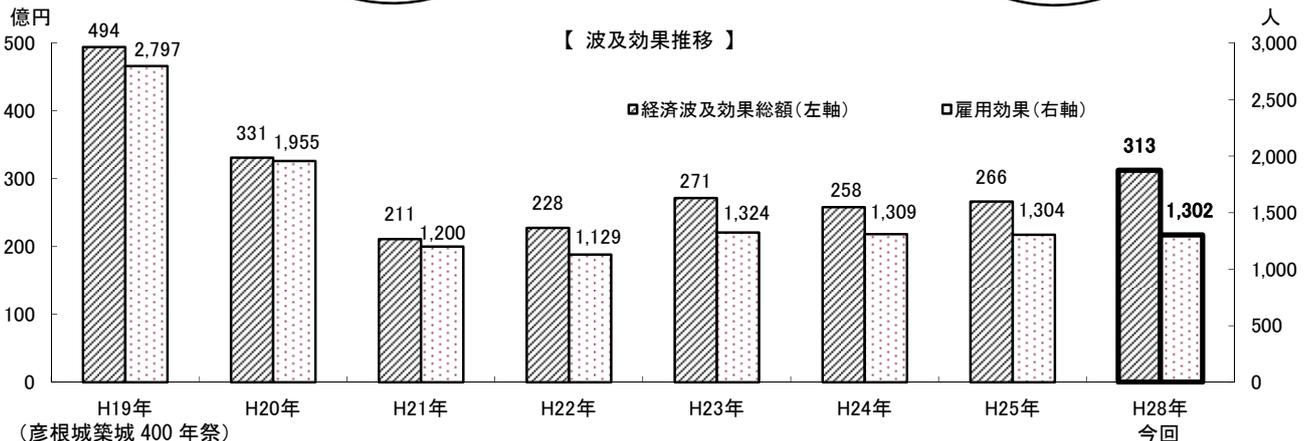
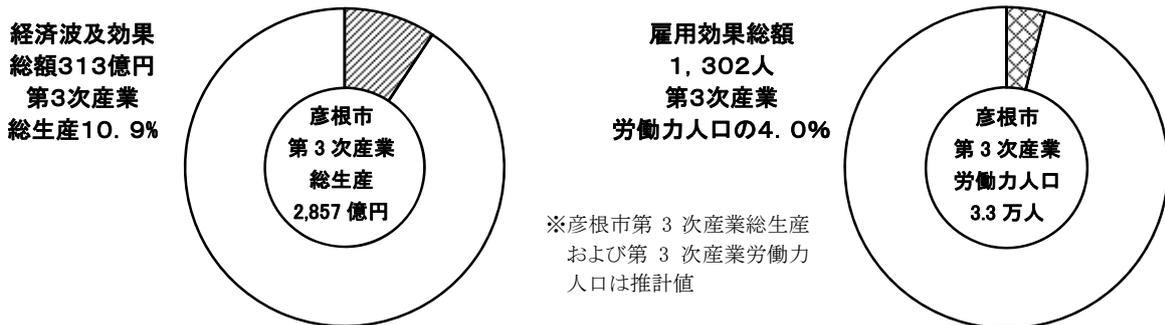


波及効果の相対的規模

彦根市第3次産業総生産の11% 第3次産業労働力の4%

【 観光消費による経済波及効果の総額 】

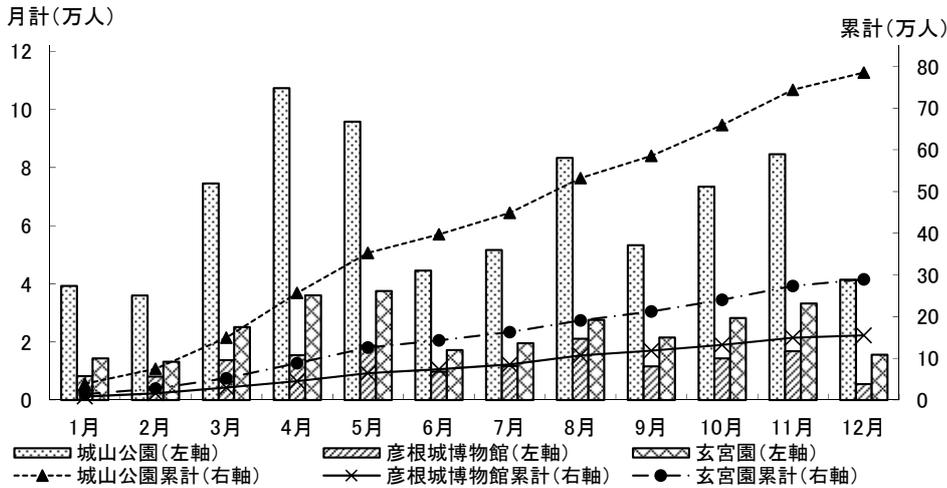
観光消費166億円による経済波及効果総額は313億円と推計された。また、雇用効果は1,302人と推計された。これは彦根市の第3次産業総生産(2,857億円)の10.9%、同市第3次産業労働力人口(3.3万人)の4.0%に相当する。前回調査(平成25年)に比べ経済波及総額で46億円増加した。雇用効果はほぼ同じだった。



平成28年彦根城周辺観光の概況

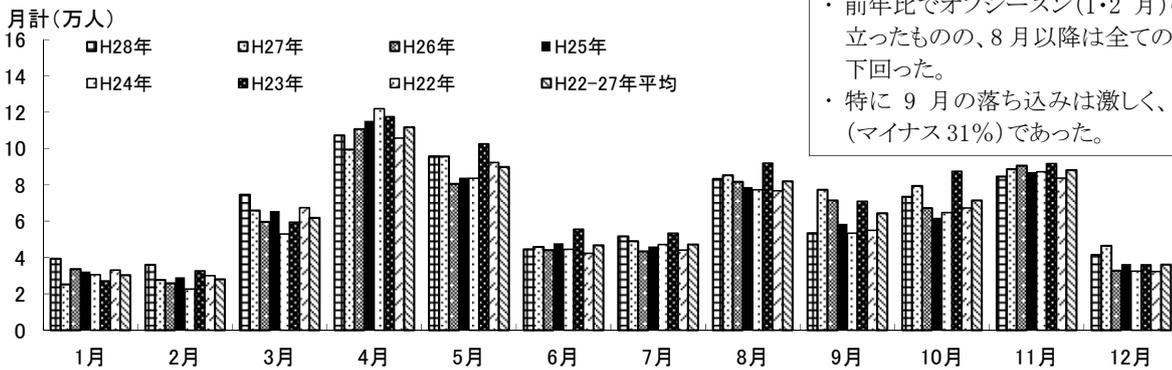
城山公園入園者数 79万人 前回調査（平成25年）比6%増加

【城山公園・彦根城博物館・玄宮園入場者数推移】



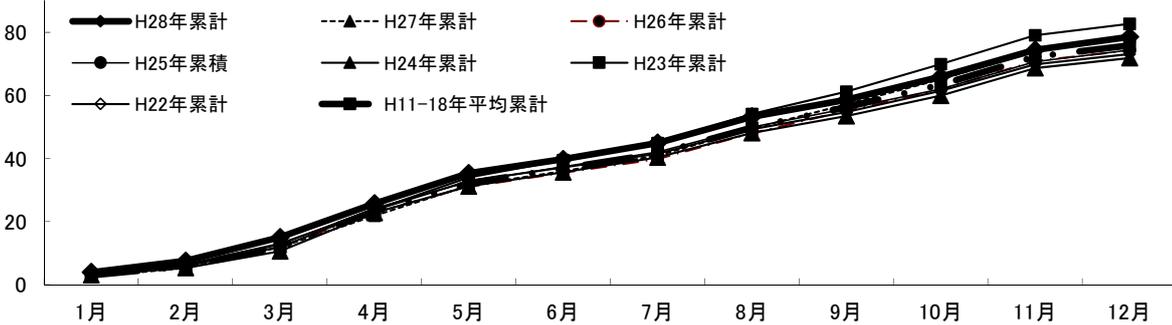
- ・城山公園入場者数は、約79万人であった。春(花見・GWの時期)と夏の終わりから秋(8~11月)にかけて、大きく来場者が伸びる傾向は例年同様だったが、9月は伸び悩んだ。
- ・彦根城博物館でも同様の時期に入場者が多かった。最多月は8月であった。
- ・玄宮園も同様の時期に入場者が多く、特に5月は3.8万人に達した。

【過去の城山公園入場者数推移比較】

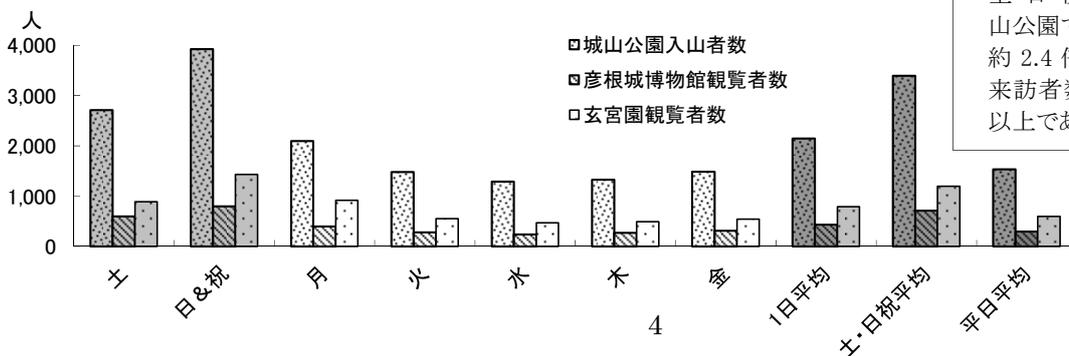


- ・前年比でオフシーズン(1・2月)の増加が目立ったものの、8月以降は全ての月で前年を下回った。
- ・特に9月の落ち込みは激しく、2.4万人減(マイナス31%)であった。

累計(万人)



【城山公園および彦根城博物館 曜日別入場者数(※平日の祝日は日&祝日に算入)】



- ・城山公園の入場者は、土・日・祝日で全体の半分を占める。
- ・土・日・祝日は平日に比べ、城山公園で約2.2倍、博物館で約2.4倍、玄宮園で2.0倍の来訪者数と、3カ所全てで倍以上であった。

普通車・大型車駐車台数 ともに前回調査比7%増 県観光地入込客ランキングは6位に相当

【 駐車台数推移 】

	普通車	大型車
H22年	172,554	5,131
H23年	179,869	6,244
H24年	161,477	5,012
H25年(前回調査)	173,404	5,255
H26年	191,933	6,215
H27年	180,427	6,471
H28年	184,684	5,638

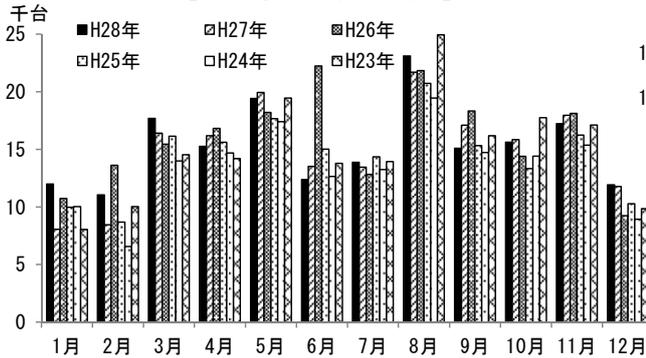
<普通車>

・前回調査(平成 25 年)比では、約 1.1 万台増加した。前年比では、約 4 千台増加した(2%増)。
 ・前年同月比では、1 月(49%増)、2 月(31%増)とオフシーズンの増加が目立った。一方、落ち込みが大きかったのは、9 月(12%減)だった。

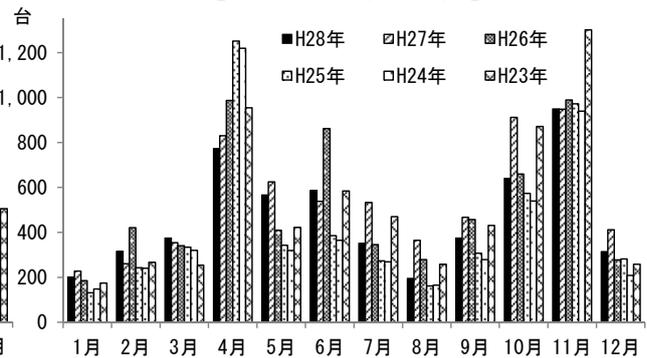
<大型車>

・平成 24 年以降、毎年増加していたが、平成 28 年は前年比で約 800 台の減少となった(13%減)。

【 月別普通車駐車台数 】



【 月別大型車駐車台数 】



【 県内主要観光地入込客数における本年の実績(平成 27 年実績との比較) 】

順位	観光地名	市町名	入込客数(人)
1	黒壁ガラス館	長浜市	1,677,700
2	ラコリーナ近江八幡	近江八幡市	1,622,100
3	多賀大社	多賀町	1,609,300
4	道の駅 藤樹の里あどがわ	高島市	870,400
5	滋賀県希望が丘文化公園	野洲市、湖南市、竜王町	817,800
6	彦根城	彦根市	786,200
7	道の駅 竜王かがみの里	竜王町	728,500
8	日牟禮八幡宮	近江八幡市	722,300
9	比叡山ドライブウェイ	大津市	628,900
10	道の駅 木はらまがらみ	東近江市	584,000
28	ひわ湖大化火大会	大津市	350,000
29	道の駅 近江母の郷	米原市	315,200
30	道の駅 かつき新本陣・日曜朝市	高島市	311,500

平成 28 年
79万人

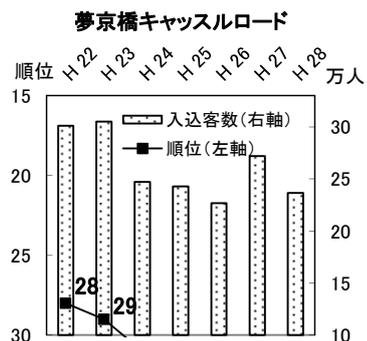
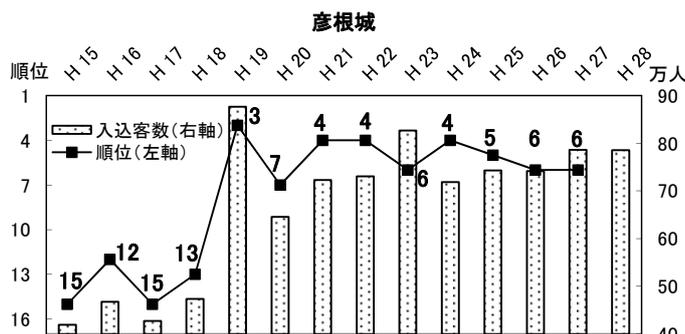
平成 28 年
24万人

圏外	夢京橋キャッスルロード	彦根市	272,000
----	-------------	-----	---------

・県内主要観光地入込客数の 10 位台前半をキープしていた彦根城は、平成 19 年の 400 年祭開催で一気に 3 位に躍進し、以降毎年高位置をキープしている。平成 27 年のランキングは変わらず前年同様 6 位だった。平成 28 年も他の変動がないとすれば、同程度の順位となることが期待される。
 ・夢京橋キャッスルロードは平成 19 年に初めてランクインし(18 位)、平成 23 年までランクインしてきた。しかし、以降は伸び悩んでいる。平成 28 年(24 万人)も他の変動がないとすればランキング入りは難しい。

※滋賀県観光入込客統計調査書(平成 27 年)より

【 観光地ランキング推移 】



観光客アンケート調査 集計概要

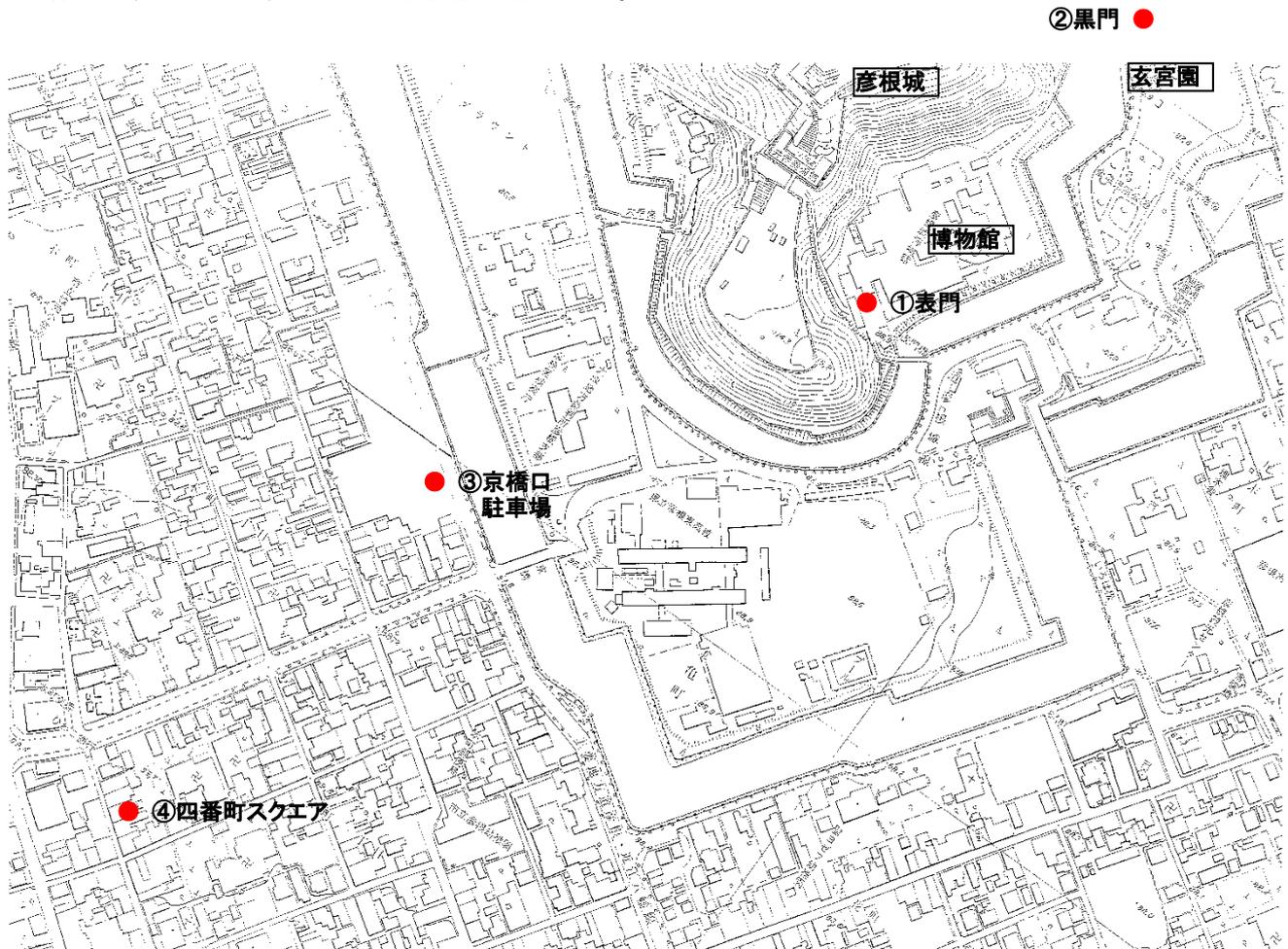
調査方法

彦根城周辺 4 地点に、調査員を 2 名ないし 3 名配置し、その地を訪れた観光客にアンケート票を配付し、自記入法(その場で回収)による調査を行った。

実施日・調査地点

調査は通常の休日[10/30(日)]、イベント日¹[11/3(木祝)]、平日[11/1(火)]に分け実施した。

具体的な調査地点は以下の表および図の通りである。



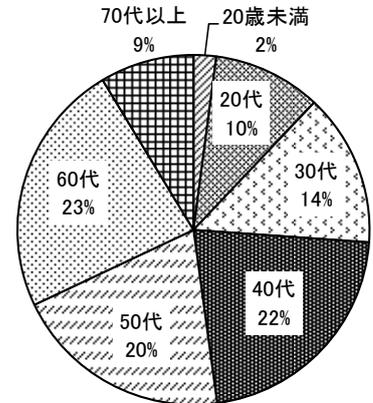
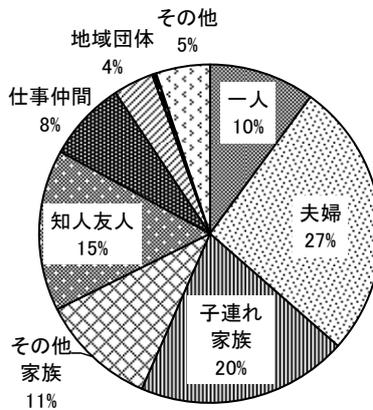
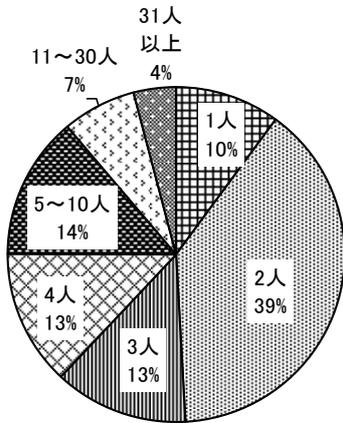
アンケート回答数

調査地点	通常の休日 10/30(日)	平日 11/1(火)	イベント日 11/3(木祝)	小計
①彦根城 表門	241	133	326	700
②彦根城 黒門	173	92	138	403
③京橋口 駐車場	128	47	139	314
④四番町スクエア	144	55	104	303
調査計	686	327	707	1,720

¹ 「城まつりパレード」の開催日であった。本調査ではこうした催しが行われる休日を、通常の休日とは異なるイベント日として位置付けている。

**観光客像は家族あるいは友人知人の2人連れ
年齢層はバラエティーに富みバランス良い**

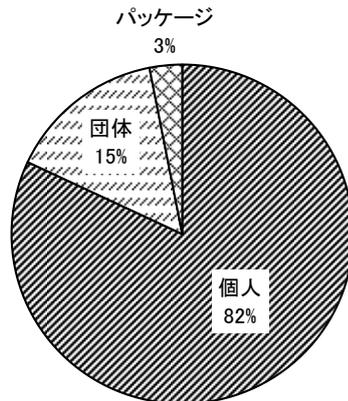
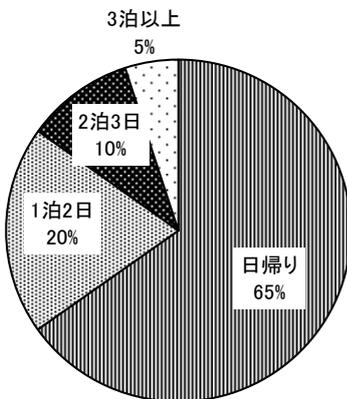
【 来訪者の属性 】



- ・家族あるいは友人知人の2人連れでの来訪が主となっている。
- ・40代~60代がそれぞれ2割を占め、30代と70代以上が1割を占める。
- ・各世代がバランスよく訪れているものの、高齢者の割合が若干上昇した。

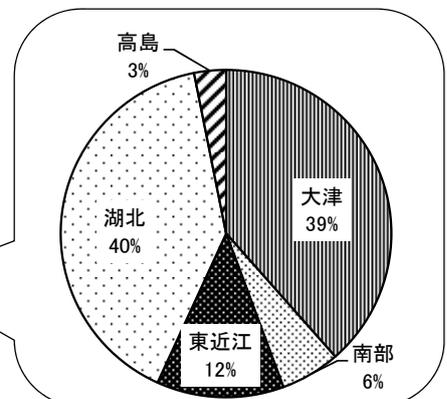
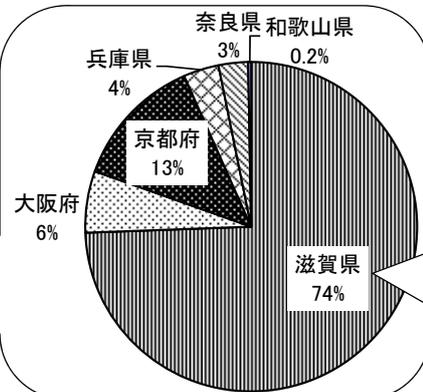
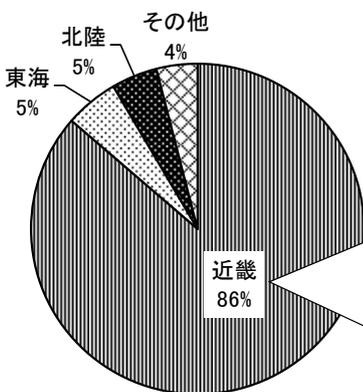
**日帰り旅行の個人客がメイン 宿泊客比率は1/3
宿泊客では4割が市内に宿泊するも、その比率は低下**

【 旅行形態と滞在期間 】



- ・前回調査(平成25年)に比べ、1泊2日で10%ポイント、2泊3日で4%ポイントと、それぞれ3割程度低下した。その結果、日帰り・宿泊客比率が2:1になった。
- ・宿泊客平均泊数は1.76泊であり、昨年比0.14ポイント増加した。
- ・観光客に占める彦根市内宿泊客の割合は13.0%であり、前前回調査(平成24年)の水準に戻った(平成25年は19.8%)。ただし、平均泊数は1.14泊であり、前回比で微増した。
- ・宿泊客に占める彦根市内宿泊客の割合は37.4%であり、前回比2.6ポイント低下した。

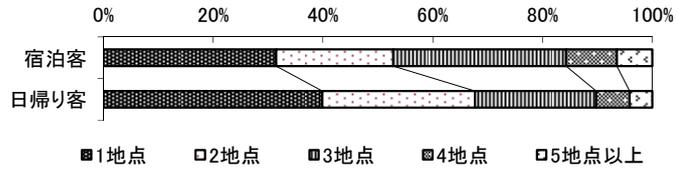
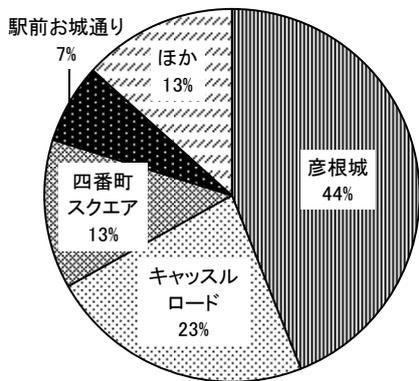
【 彦根以外に宿泊する観光客の宿泊地 】



- ・9割近くが近畿内(彦根市以外)であった。前回調査(平成25年)比で、近畿が6%ポイント増えた反面、東海が半減した。
- ・近畿内では4人中3人が県内に宿泊している。各府県の比率は前回調査とほぼ同じであった。
- ・県内では、大津地域と湖北地域がほぼ同じで4割宿泊していた。前回調査との対比で、大津地域の比率が若干高まった。

彦根城・キャッスルロード・四番町スクエアがメイン、平均立ち寄り箇所は2箇所とほぼ変わらず

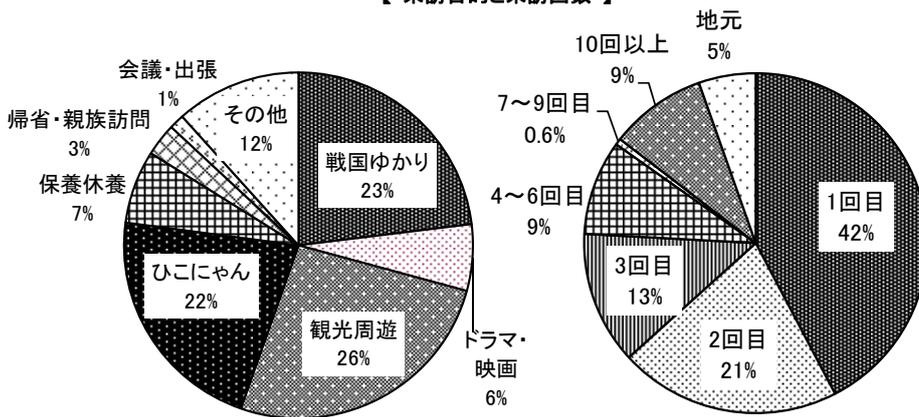
【 立ち寄り箇所、宿泊・日帰り客別立ち寄り地点数 】



- ・主な観光スポットは彦根城、キャッスルロード、四番町スクエアの3地点であり、傾向に変化はなかった。
- ・関東、甲信越・北陸からの観光客で、キャッスルロードを訪れるのは4割であり、四番町スクエアまで来るのはその半分にとどまっていた。
- ・宿泊客の平均立ち寄り地点数は2.39、日帰り客は2.08であった(観光客全体平均では2.13)。

戦国ゆかりの地・周遊観光・ひこにゃんが来訪理由はじめての来訪が最多である一方、4回以上のリピーターが2割

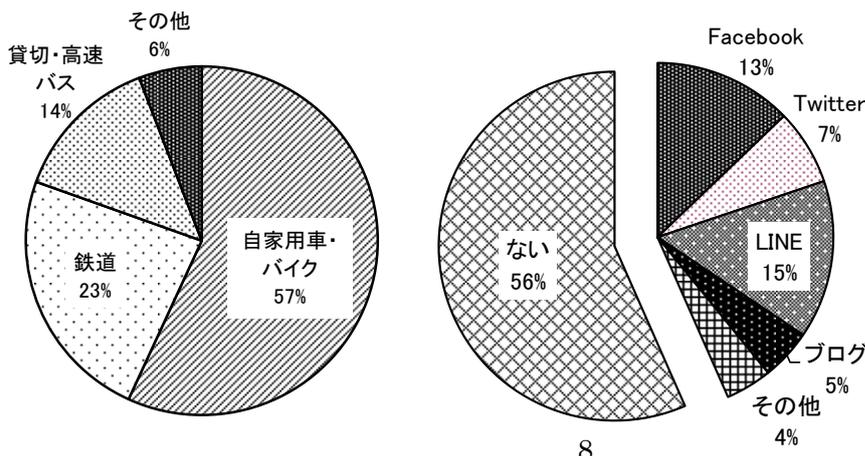
【 来訪目的と来訪回数 】



- ・戦国ゆかりの地とドラマ・映画の割合が、前回調査比でそれぞれ4%ポイント増加した。
- ・来訪目的各項目の比率は前回調査同様。戦国ゆかり、観光周遊、ひこにゃんがそれぞれ2割以上を占める。
- ・来訪回数の傾向は前回調査(平成25年)とほぼ同じ。4回以上のリピーターが2割いる。
- ・平日は比較的訪問回数の少ない観光客が来ている。

自家用車での来訪が6割 Facebookによる情報発信者多数

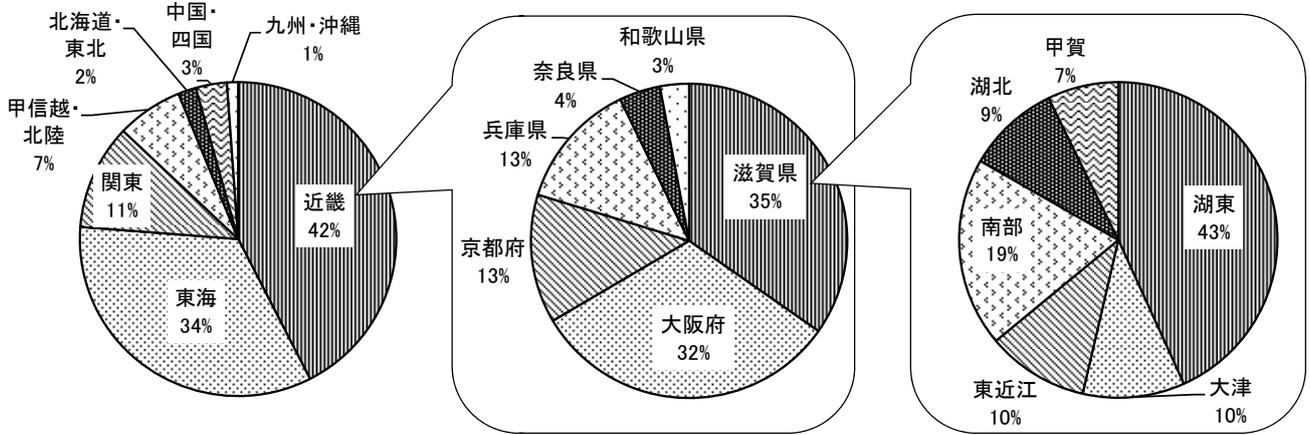
【 来訪手段と情報発信ツール 】



- ・“彦根まで”の交通手段として、(JR、近江鉄道)利用が2割強、自家用車・バイク利用が6割弱であった。
- ・SNSによる情報発信者は4割を超え、前回調査(平成25年)に比べ1割以上増加した。
- ・LINEとFacebookの利用者が多かった。次いでTwitter、ブログであった。

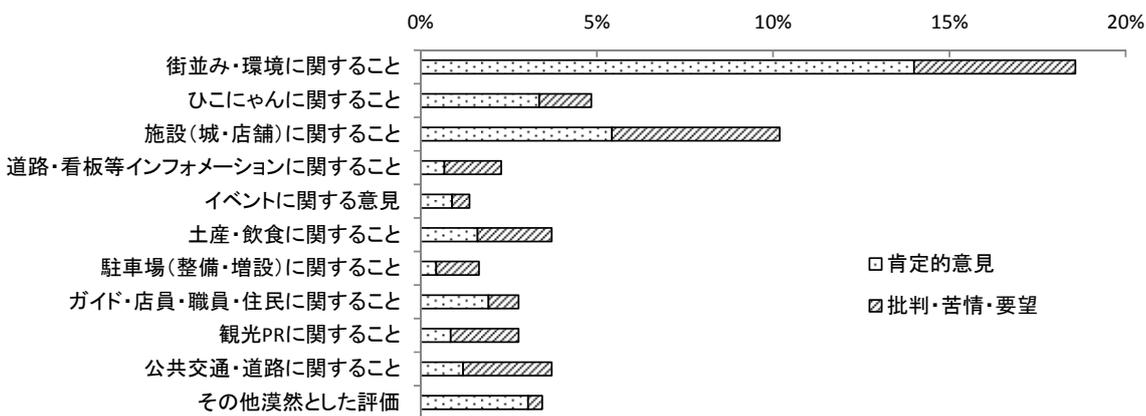
**来訪者の居住地は近畿4割、東海3割 関東、甲信越・北陸がそれぞれ1割
近畿では9割以上が滋賀県・大阪府・京都府・兵庫県内**

【来訪者の住まい】



- <全国区>
- ・ 近畿圏が約4割、東海圏が約3割なのは前回調査同様の傾向であり、次いで関東、甲信越・北陸がそれぞれ1割程度を占めるのも同様の傾向だった。
- <うち近畿圏>
- ・ 他の府県の比率はほとんど変わりがなかった。
 - ・ 滋賀県、大阪府、京都府、兵庫県で9割以上を占める傾向は前回調査同様だった。
- <うち県内>
- ・ 地元を含めた湖東エリアが最も多く、その比率は前回調査比で上昇した(37%→43%)。
 - ・ 東近江と湖北エリアの比率が若干低下した。

自由記述



- ・ 街並み・環境に関しては、「落ち着いた」、「静かな」、「きれいな」といった肯定的なキーワードが多く見られた。一方で、「彦根駅前通りの寂れ具合を何とかすべき」「若者が少ない」等、活気がないと逆の評価も見られた。
- ・ ひこにゃんに関しては、「かわいい」、「よかった」といった肯定的な評価が多かった。一方で、前回調査(平成25年)に比べると、ひこにゃんに関する記述は少なかった(12%→4%にダウン)。
- ・ 施設(城・店舗)に関しては、彦根城の素晴らしさに関するものが大半であった。一方で、天守閣までの厳しい道のりを改善してほしいという意見や、城山公園内の土産販売店を充実してほしいとの意見が多かった。
- ・ 駐車場の場所のわかりにくさや標識の充実について訴える意見が多かった。一方で、駐車料金がリーズナブルとの評価も散見された。
- ・ 駐車場脇にレンタサイクルを運営してほしいという意見があった。
- ・ ひこにゃん以外のお土産やグルメの開発を求める意見があった。
- ・ ガイド・店員・職員・住民に関しては、好印象及び感謝の意見が多かった。

【試算】訪日外国人客増加の経済波及効果

最大で 22 億円の追加的経済波及効果 市内第 3 次産業総生産をさらに 1%押し上げ
 施策を誤るとマイナスの効果も

【試算結果一覧】

		＜ベースライン＞ H28年実績	
		宿泊客	日帰り客
1 消 費 額 内 訳 内 訳 観 光	交通費	¥1,790	¥583
	宿泊費	¥13,724	¥0
	飲食費	¥3,556	¥1,570
	土産購入	¥2,351	¥1,570
	その他	¥696	¥550
	合計	¥22,117	¥4,273
観光客実人数		392千人	1,849千人
市内宿泊率		17.5%	
観光消費総額(百万円)		16,562	
波及総額(百万円)		31,251	
雇用者総数(人)		1,302	

- ・＜シナリオ A-1＞
外国人宿泊客が倍増
- ・＜シナリオ A-2＞
彦根観光を目的としない外国人宿泊客が倍増
- ・＜シナリオ A-3＞
外国人宿泊客が倍増する一方で、日本人観光客が減少
- ・＜シナリオ B-1＞
外国人日帰り客が倍増
- ・＜シナリオ B-2＞
日本人・外国人の日帰り観光客がそれぞれ増加し、
飲食費と土産購入費を各 1 割多く支出

宿泊客増加のシナリオ

		＜シナリオA-1＞ 外国人宿泊客が 倍増した場合		＜シナリオA-2＞ 彦根市観光を目的としない 外国人宿泊客が 倍増した場合			＜シナリオA-3＞ 彦根市観光を目的としない 外国人宿泊客が倍増し 日本人観光客が減少した場合		
		宿泊客	日帰り客	宿泊客	目的外宿泊客	日帰り客	宿泊客	目的外宿泊客	日帰り客
1 消 費 額 内 訳 内 訳 観 光	交通費	¥1,790	¥583	¥1,790	¥0	¥583	¥1,790	¥0	¥583
	宿泊費	¥13,724	¥0	¥13,724	¥13,724	¥0	¥13,724	¥13,724	¥0
	飲食費	¥3,556	¥1,570	¥3,556	¥0	¥1,570	¥3,556	¥0	¥1,570
	土産購入	¥2,351	¥1,570	¥2,351	¥0	¥1,570	¥2,351	¥0	¥1,570
	その他	¥696	¥550	¥696	¥0	¥550	¥696	¥0	¥550
	合計	¥22,117	¥4,273	¥22,117	¥13,724	¥4,273	¥22,117	¥13,724	¥4,273
観光客実人数		433千人	1,849千人	392千人	41千人	1,849千人	359千人	41千人	1,849千人
市内宿泊率		19.0%		19.0%			17.8%		
試算 結果	観光消費総額(百万円)	17,476		17,129			16,398		
	増分(百万円)	914		567			▲ 164		
	波及総額(百万円)	33,012		32,360			30,951		
	増分(百万円)	1,761		1,109			▲ 300		
	第3次産業押し上げ効果	0.62%		0.39%			-0.11%		
	雇用者総数(人)	1,378		1,350			1,289		
増分(人)		76		48			▲ 13		

日帰り客増加のシナリオ

		＜シナリオB-1＞ 外国人日帰り客が 倍増した場合		＜シナリオB-2＞ 呼び寄せ&スピルオーバー 効果で、客数、飲食・土産 購入費が増加した場合	
		宿泊客	日帰り客	宿泊客	日帰り客
1 消 費 額 内 訳 内 訳 観 光	交通費	¥1,790	¥583	¥1,790	¥583
	宿泊費	¥13,724	¥0	¥13,724	¥0
	飲食費	¥3,556	¥1,570	¥3,556	¥1,727
	土産購入	¥2,351	¥1,570	¥2,351	¥1,727
	その他	¥696	¥550	¥696	¥550
	合計	¥22,117	¥4,273	¥22,117	¥4,587
観光客実人数		392千人	1,920千人	392千人	1,991千人
市内宿泊率		16.9%		16.4%	
試算 結果	観光消費総額(百万円)	16,865		17,793	
	増分(百万円)	303		1,231	
	波及総額(百万円)	31,809		33,478	
	増分(百万円)	558		2,227	
	第3次産業押し上げ効果	0.20%		0.78%	
	雇用者総数(人)	1,324		1,386	
増分(人)		22		84	

- ※1 白抜き数字の部分をシナリオに基づき、ベースラインから変更して試算を行っている。
- ※2 「増分」は全てベースライン(実績値)との比較を示している。

◆ 調査・分析受託 ……



滋賀大学 社会連携研究センター

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1

Tel : 0749-27-1279

Fax : 0749-27-1431

E-mail : rccs@biwako.shiga-u.ac.jp

URL : <http://www.shiga-u.ac.jp/>

[research_cooperation/about_social_cooproration_research_center/](http://www.shiga-u.ac.jp/research_cooperation/about_social_cooproration_research_center/)

滋賀大 社会連携



◆ 社会連携研究センター 教授 …… 石井 良一 (Ryoichi Ishii)

◆ 経済学部 教授 …… 得田 雅章 (Masaaki Tokuda)

